

教科・科目	対象学年	単位数	教科書（発行者）	補助教材（発行者）
家庭・家庭基礎	1年	2	新家庭基礎（実教出版） パートナーシップでつくる未来	・2018 最新 生活ハンドブック（第一学習社）
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解する。</li> <li>・生活課題を解決するために必要な衣食住、保育、福祉、消費生活などに関する知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身につける。</li> </ul>			
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書・資料集やワークシートを中心に授業を進め、人が生きてくうえで必要な家庭生活にかかわる基本的な知識を身につける。</li> <li>・体験的学習や実習・実験を通して自立にむけた技術を身につけるとともに、現状の生活課題などを自ら発見し解決する。</li> <li>・グループで話し合い、意見をまとめて発表し、情報を共有しながら、課題解決にむけて取り組む。</li> </ul>			
評価の観点と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つの観点をもとに定期考査や実習態度、プリント、実習ワークシート、課題レポート、ホームプロジェクト、作品製作などの提出物等を総合的に評価する。</li> </ul>			
	学期	単元・学習項目	学習内容・到達度目標	
年間 の 授 業 内 容	1 学 期	「家庭基礎」を学ぶにあたって 1編 人とかわって生きる 1章 自分らしい生き方と家族 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を見つめる</li> <li>・自立した生き方、共に生きる人生</li> <li>・共に生きる家族</li> <li>・家族に関する法律</li> <li>・私たちの生活を支える労働と生活時間</li> </ul> 2章 子どもとかわる <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを知る</li> <li>・発達のすばらしさ</li> <li>・子どもの生活</li> <li>・親になることを考えよう</li> <li>・すこやかに育つ環境</li> </ul> 3章 高齢者とかわる <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢社会に生きる私たちの暮らし</li> <li>・高齢者を知る</li> <li>・豊かな高齢期を迎えるしくみ</li> </ul> 4章 社会とかわる <ul style="list-style-type: none"> <li>・支えあう暮らしとは</li> <li>・私たちの社会福祉</li> <li>・地域社会の一員としてのボランティア活動</li> <li>・災害に備える</li> <li>・ホームプロジェクトの実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の意義や内容、学習の方法、評価の方法を理解する。</li> <li>・自分自身について客観的に知り、生涯を見通して人の一生について考え、それぞれのライフステージの特徴・課題を理解する。</li> <li>・男女共同参画社会の実現をめざす社会的背景について理解し、どのような青年期を生きるか、自立について考えることができるようにする。</li> <li>・さまざまな結婚、家族・家庭の意義や機能や現在の家族の抱える課題などを理解する。</li> <li>・家族に関する法律について学習し、理解する。</li> <li>・労働の意義や役割、労働時間と生活時間との関わりについて理解する。</li> <li>・保育を学ぶ意義について学習し、子どもを理解することで自己理解を深める。</li> <li>・子どもの心身の発達と特徴を知り、親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを理解する。</li> <li>・子どもの食生活・衣生活、遊びについて理解を深め、児童文化財の役割を理解する。</li> <li>・現在の子どもの取りまく環境を知り、子どもの発達と環境とのかかわりについて学習する。</li> <li>・家庭保育と集団保育、子育てのための国や地域の社会的支援について理解する。</li> <li>・高齢社会の現状と課題について学習する。</li> <li>・高齢期の心身の特徴や高齢者の生活について理解する。</li> <li>・介護保険制度のしくみやサービスの内容、地域住民間での助け合いの活動などを理解する。</li> <li>・個人や家庭生活を支える社会保障制度や社会福祉の重要性について理解する。</li> <li>・ノーマライゼーションの理念を理解し、ユニバーサルデザインについて具体的に考える。</li> <li>・ボランティア活動について学習し、支え、支え合う社会の大切さを学ぶ。</li> <li>・自分や家族の命を守るために、日常的に災害に備えることへの意識を高め、対策について考える。</li> <li>・自分の身のまわりの生活課題をみつけ、その解決を目指して夏休みに調査・研究・実践し、レポートを作成する。</li> </ul>	
	2 学 期	・ホームプロジェクトの発表 2編 生活をつくる 1章 食生活をつくる <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの食生活</li> <li>・栄養と食品のかかわり</li> <li>・食品の選び方と安全</li> <li>・食事の計画と調理（実習は年間に分けて実施）</li> <li>・これからの食生活を考える</li> </ul> 2章 衣生活をつくる <ul style="list-style-type: none"> <li>・人と衣服のかかわり</li> <li>・衣服の素材を見てみよう</li> <li>・衣生活の管理</li> <li>・衣生活と資源・環境</li> <li>・すべての人が快適な衣生活を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ホームプロジェクト」の活動を通して得た成果について、工夫して発表する。</li> <li>・各自の食生活の問題点について考えるとともに、現在の食生活の現状や課題について考える。</li> <li>・栄養素の働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識を習得する。</li> <li>・食品の選択、食中毒、食品添加物について学び、消費者としての知識を身につける。</li> <li>・食事摂取基準、食品群別摂取量などを用いて、バランスのとれた家族の食事計画ができるようにする。また、調理に関する基礎的な技術を身につけ、食事マナーについて学習する。</li> <li>・食品の自給率や食に関する環境について考察し、環境を考えた食生活について考える。</li> <li>・衣服の機能について、自然環境や社会環境とのかかわりを学習する。</li> <li>・衣服素材の種類・性能、繊維の種類と特徴について理解する。</li> <li>・汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した洗濯や保管方法を知る。</li> <li>・計画的な衣生活を送るために、衣服の購入・選択、洗濯・保管、廃棄までの流れを理解する。</li> <li>・衣服と健康障害や事故について、また、ユニバーサルデザインについて学習する。</li> </ul>	
	3 学 期	3章 住生活をつくる <ul style="list-style-type: none"> <li>・人と住まいのかかわり</li> <li>・住まいを計画する</li> <li>・健康的な住まい環境</li> <li>・安全な住まい環境</li> <li>・これからの住まいを考える</li> </ul> 3編 消費者として自立する 1章 消費行動を考える <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費行動と意思決定</li> <li>・社会の変化と消費生活</li> <li>・消費者の権利と責任</li> <li>・持続可能な社会環境</li> </ul> 2章 経済的に自立する <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージと経済計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住まいの機能や気候風土とのかかわりについて学び、ライフステージに合った住まいを考える。</li> <li>・平面図の読みとりができるようにする。ひとり暮らしの準備を想定して不動産情報を理解する。</li> <li>・快適な室内環境について、日照・採光、通風・換気、騒音、冷暖房などの要素を学習する。</li> <li>・家庭内事故や自然災害などに対する住まいの安全性を高める方法を知る。</li> <li>・住生活の現状や住宅政策を理解し、これからの課題を考える。</li> <li>・消費行動において、意思決定のプロセスを理解する。</li> <li>・契約、販売方法、問題商法について理解し、被害にあった場合の解決方法について理解する。</li> <li>・消費者の権利と責任について理解し、消費において自主的に行動することの必要性を理解する。</li> <li>・資源・環境に配慮した生活スタイルについて考え、実行を心がける。</li> <li>・生活設計とかかわらせて、長期の経済設計の必要性について理解する。</li> <li>・生涯を見通した生活設計の重要性について理解する。</li> </ul>	